

「横浜消防出初式2017」で自衛隊の災害派遣活動をPR



古式消防演技の様子



ふれあいコーナーで大人気の
神奈川地本キャラクター「はまにゃん」

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 松田 辰雄 1等海佐）は、1月8日（日）、横浜赤レンガ倉庫イベント広場で開催された「横浜消防出初式2017」において、自衛隊広報ブースを開設し、自衛隊の災害派遣活動をPRした。

このイベントは、横浜市及び（株）エフエフコミュニケーションズの主催により、市民が安全・安心を実感できるよう、横浜市消防局と関係機関との連携した災害対応力等を披露するとともに、楽しみながら防災・減災について学べるイベントとして毎年開催されているものである。

自衛隊ブースでは、災害派遣活動状況のパネル展示やDVD放映、非常用糧食（缶詰め等）の展示のほか、募集用リーフレットの配布を実施し、来場者に対して自衛隊の災害派遣活動等を紹介するとともに、合わせて自衛官募集をPRした。

また、神奈川地本キャラクター「はまにゃん」も出演し、子供から大人まで一緒に記念写真を撮影するなど、大いに賑わいを見せた。

神奈川地本は、「今後も、自衛隊の災害派遣活動や災害時に活躍する装備品等を広くPRし、自衛隊への更なる理解と協力を求めていく」としている。

「総合的な学習の時間」を支援



1.26 騎門駐屯地で職場体験の様子



1.27 厚木航空基地で職場体験の様子

神奈川地方協力本部溝の口募集案内所（倉橋准陸尉）は、1月26日（木）27日（金）の両日、騎門駐屯地及び厚木航空基地において、川崎市立宮前平中学校と宮崎中学校の「総合的な学習の時間」を支援した。

1日目は、騎門駐屯地において、基本教練の体験や短SAMの訓練見学、戦車体験搭乗などを行った。

生徒たちは、74式戦車と96式装輪装甲車に交互に搭乗し、活発に質問する姿が見られるとともに、「高価な機材が日本を守っていることを初めて知った」などの感想が聞かれた。

2日目は、厚木航空基地に所在するそれぞれの部隊の研修を行った。エフロンにてP-1哨戒機や航空管制塔の見学、基地隊の防火服着装の体験を行い、生徒たちは真剣な目で熱心に学習していた。参加した生徒からは、「防火装具一式は重くて走れない」「ビーフカレーはとても美味しかった」などの感想が聞かれた。

溝の口募集案内所は、「今後も生徒たちに直接触れ合える機会を通じて、自衛隊に関心を持ってもらえるように努めていく」としている。